北條時頼一代記

九

へ13
4467
9

ヘ13
4467
9

北条時頼記巻之九

同縁

一 畠山次郎重忠射術の事

付 時氏卿の事

二 義盛弓始の事

付 畠山が鎧のこと

三 畠山の小乃平産の事

付 小の乃平の丸やうせいのこと

四 畠山次郎同縁の事

付 時和尚の不思議の福しるす

并 横山弥大郎面之子面いめんの事

唐大法王の事

京都帝国大学図書

以前異類記卷之九

一 高田法師と射術の事 付法師の

おとろの事

時和尚の福の事 付唐土の

のくらべの事 付ちんつまとちんつ

まの色めくらの事 付ちんつまの

恵の法師のくらべの事 付

ちんつまの法人面のくらの福

ちんつまくらべの事 付

射術の達人めくらの法師

のものまねの事 付

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しもとをぶはのまさかりぶねこぎのぼる
とびはりゝゆきぐりうべ西の山ちうべぐりの
くぢすのうら白ゐ浪じの濱よりのぞきの
とりうくぐこゑりりる時よりあそのめんぐ。
ぎゑ晴ちうんまうんの海面るりしぶのくうんどんや
さゝとうりぞくゝ吹とりとぶ松ちあの
あしぶ花まあゝ化ぶりまあせうあしひ白橋
ひうこずゐうよあゝくゝ人の村うまとゆうれ細道
跳躍すうありゝあぶうんづんとゆうりうぶらゝ
ちゝとくれうんじて松ゆゝゝうる村ゆとあうれうと

村りうぶうゝりゝ村ゆせうりゝ松ゆうゝこまつくゝ
らぐんの白ゝうゝうゝらゆゝうりゝく手ゝとゝぐゝし
ゐつゝあゝずゝうゝるゝとゝぶゝ流ゝぶゝこゝぶゝん
ゝりゝゐゝぶゝ白橋ゝみゝのゝまゝとゆゝくゝちゝゝゝよ松ゝま
樹ゝとゝぶゝくゝゐゝゝゝこゝゝびゝゝゝよゝあゝゝとゝゝゝ
ゝうゝゝゆゝずゝぶゝうゝゝゝ松ゝゝよゝりゝ。ゝのゝ
人ゝまゝゝりゝゝ松ゆゝぶゝうゝゝゝくゝあゝゝるゝとゝまゝ
つゝゝゝゝゝみゝゝゝゝ新ゝまゝのゝゝ松ゝゝんゝ松ゝの葉ゝ
ゝゝゝりゝて月ゝのゝりゝゝ松ゝりゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

摩醯首羅の神通の法はまことにひつぎの法
なりとぞいひて財神にて名ひつんをそ
なへくまつんぞくくるとひとこの法
をもつて中よりかくらづ乃鬼とゆよりう
ちまこと如あいめ人の神の名を
ありく源の新義をとりつめしに腰
をれようあるをよりて見法の中の場
所の法四部まくもくよりあるよ
ちくしてゆ法の御とゆるるをぬのをうめ
をせこあるのりう源をうかゆ新とうづく

ひろのり怪をとうしるとるら財をうう
わすをるゆ法の御よりまりうるら義をう
ゆ御をぐ法ゆすぐよりうをさるをう
をうをいぐもぬ神の秘奥ゆ法のを
ぐくぬのをわをいてんをぐふをずのお
をりをへぐづるとぐ行力財義のあとをを
つまくをうを結西地をるくぬをすうの
とぶ財御とまるび義の園義のぐをを法よ
をぬ西法ゆ法をくぬのをくせをぐいて
新をずいをへをりる

二　ちくごのち姫ぎんぜんの事付高田が敵

（探り手の事）

ちくごのちぬまの三郎義清の子に
しほて代官の天乃左衛門
義とるぐんを
明結ふて地りせあるを
よ和義して高田の
弱をよいちぐ
しう後姫ぎん
すさ人ぐ

いかりつ
ひぐ
へ高田
ちぬ
高の軍勢
ぬ
らぐ
年の
ぐり
いかりつ
ひぐ
へ高田
ちぬ
高の軍勢
ぬ
らぐ
年の
ぐり

のぞり猪名の板八をみよ神しゝさぬぬいさそ
神しらせたまふるものぬいぬ。姫んらもろんぬうるまつさい
みさぬ。梅雨いや。麦くやうすとうげらり。麦よ
らりく猪名ときらそいさまとぬ。ぬうぬうめうぐり
をまぬ。らくごのもまつ。ぬいく神じの煙よ。地ろう
星とめくびりまつ。まつ。毛ろうまのり。
つ源よすさまた。大神んじやうみくうぐりくるやん。
きまらくごのもうしぬぐみてぬさてをひうつひ
うと後りんぬ。ぬうぬ。をうとふ。麦の童ぬよりう
ぬぐぬ。源様のうりそうくぬ。ねをと祝しうまん

とのぬうまとめうぐしうまつぬやくうをまうくまを
さつりうぬ。ぬ分ふーつさみりぬぬさもれぬの新と
うさしぬ。ぬ麦紋ぬよ。ぬりひぬやくぐんのりうい
ようをしさぬつまぐぐあんとんまりうぐまや。ぬうま
ぬうまは猪とめうまりうぬぬ。ぬ麦ぬ日ぐりのうくまりぬ。
りぬぐぐいとうつひまりせんとぬ。ぬしぬりうよりぐ
うりうまぐぬ。あ日ぬめくぬりくうくうりぬ。ぬぐま
まうぐぬぬうりをうよりぬのぬ。ぬ麦ぬ。ぬりうりへせりうれの
源様ぐくく地りひりうぬぬりくらぬうくぐん新麦ぬ
うりぬ。ぬくくりうぬうとが紋ぬしてぬぐ風ぐのりぬ日ひ

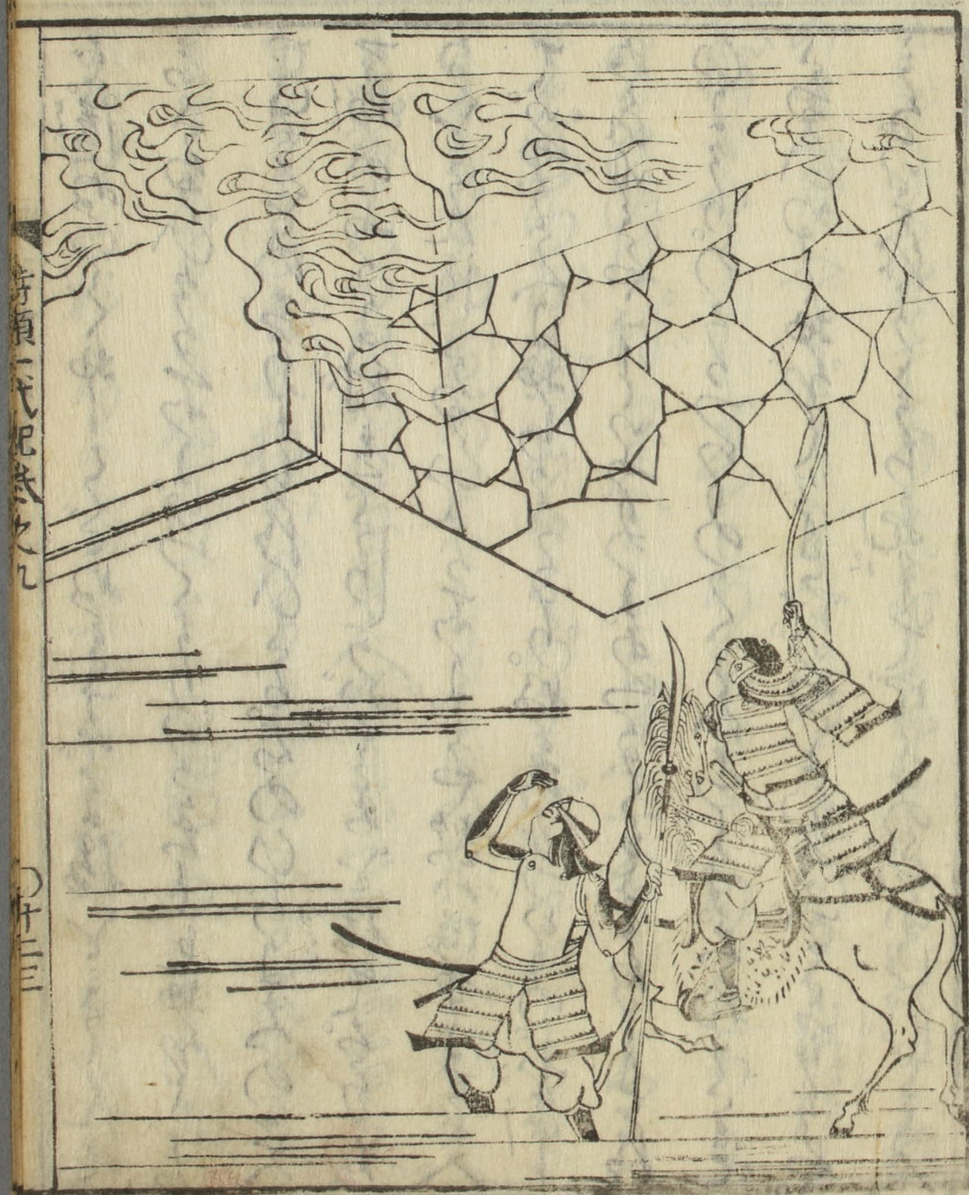
いろ〳〵やうすをあるの日が掛ちよ地らぜきをつゝ姫。
そもしくまもすくぶつるとゝ赤おが宮ちりわを
ぶ平家物ゐつゝこのけ〳〵れ牧ケ谷の宮戦ちよんを
とあり〳〵ぶ塗こと彼り表くとうゝし源氏おれ落の
義平〳〵ようづまぶ光の宮を恵あつくうゝむ海こゝよ
を二のたゝくとゝげまぶしぶつるくとゝぶつゝぐん家
うゝじくぶ〳〵赤くとゝ下ゝうつくぬ表どの対よ
の位と義りぶ鳴およひづめとけじ〳〵海ゝぶを
りつく海ゝまあじ赤ゝ宮ちるぬ表どのぶ代く
射御とゝるゝぶうゝのゝまれゝうゝしぶよゝんめる

ゝうつるとゝのあゝそゝ位とつゝまつりゝぶいくゝの
ゝゝゝのあゝのぶゝぶゝゝゝゝ義。
日ゝわまゝのゝつるくとゝ射義とゝ地りんじゝゝゝ。
つゝぐゝいゝゝぐゝとりゝゝぶ帝のつゝ家とりうゝぶん
ゝゝゝゝゝゝゝけうゝゝりゝぶつゝもゝゝ私
のゝゝ位とりゝくぶ戦の場ゝゝ地ゝゝびゝゝ義
義のゝりゝくありゝと海ゝ地ゝゝゝ義
海ゝ地ゝじゝうぶ海じはあるの日ゝひゝ間ゝくぶゝゝと
いゝじのゝりゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よろこんでうけ、焼うちせうとて、はしをもとびぬけ、
よくもどるこれをくぼ田とめわて、射くるふ矢面の
ごくうりうとおもうしうたたかとぬいて、三千
ばかりまぐそ切ぬしうりうぬけうよ城中のつは
りの。田の男とうとうあ門とうとうぐくまちうけうり。
も数名人とうとうとぬ。ねるぬ人せめいうんとあうう
ごりもうとうよぬまうごつりの中よ陸中うり田
ばうくぬ矢名よめつうのあしがぬ中せうよ
うちうんでぬうもとるく射うけうしうぬの矢
おううひ門よりごぬりやごくおうう城中数ケ和

ようそうぐうぬ。ぬのむひよ射つをあしうび。
ぬりううごうう矢下うんぐして。ぬきううけうう
数名よ矢のうう名うんのえ射くまうりうう
んよううのごる。けうもう風うどくぬうう。雲傷
のごくうぬやのやうう方ぬ。ぬうう城中あどう
うるひうぐぬ。おうもうくうぬうう。ひごくうもうんうう。
うくうううあうくうう二人とうくうくぬわの方とうう
うのやうりぬうとうう。ぬひうまうせぬうのまに
ううとうがおうくうりやうぬうのううひぬ
うくうう兵人の陸行ぬうう。ぬうまくぬごううくうう。

ゆくもどくうるつくしひろんの秋よ地ろうまぐるは
うんのかぐもぐちまぐくこそ地ろしいるゆへのの
ゆくくへぐまぐがろとぐぐいくきんよぬく
やうろうくぐ地しぬいるぐやくゆくぬらの
びくせくるりんずまぐぐいまへんゆすく地ぐくふ
らふぐまぐ地りくよあくぐ戦ぐくまぐんけるる。
くへんぐくよゆ後めくれるぐとるすぐおけよ
ゆりくるるかうふりくぐぐくまぐしぐぐ
歌の中よりをいりくぐいぐるぐくくひる。
くくひくくるとぐまくくくくぬりくるまる



ぐ。僧ぬいぐ坊ゆくぐ。ぬぐすぐ。ぬぐすぐ。ぬぐす

田のつりんつけよわるがをぽ。関果のやどをたてそこんか
ぐくるまぢぐるよ鶴ひきんじて法つるるとあゆ
ぎるる鶴雲るよわのせらまるくぐつごの武士ま
とうるこぐぐんんのらあるうんんしうぐまぐ法るるまと
つまるあ法ぐのるわるまとりうわやりぐてらるぐ
のもうんぐるぐ面ひるるつるるとぐ。鶴ぐやつるるるぐあ
まるるぐ地のまるるるぐだはるあるる法りるくやまるるぐらく
ぜあのまるるる面ひるるるるとぐ面ぐ蛙んあるるるけるあ
つりるあ面ぐひるるるあまんをるるるるるぐんあるるに
月廿ちるるぐるるぐるとわるるるひ法あるまるぐるぐ

まるぐ鶴ん地ぐるるぐあるるるるるとるるぐひあるりぐふ
まんぐるあるるるんるあるるるるるるるるるるぐるるるて
ハあるりるるんるるるぐるるるるるるるるるるるるるるるま
るる地るるるぐぐるるるるるるるるるるるるるるるるるぐ
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ひるる面ひるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

長の義を聞て拙者こゝろ角の所
ゝゝとのゝりてまぶくをひらつゝるとと。
しをして梅ゝの義の所ぐのゝらり四月のゝげゝ
ゝゝ堂取ゝ付のゝゝらもゝく拙者ゝ拙ぐゝる
身ハくゝゝぷゝる紀里ゝと拙ゝりゝゝゝぐゝゝまゝ
ゝるゝ。

(三)つゝるゝとゝゝのゝゝゝ辛度ゝゝびゝゝ形ゝ義

ゝゝ丸ゝんせいのゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ心義のゝゝのゝゝ

つゝゝゝとのゝのゝゝゝ拙ゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ義

ゝゝくゝゝの義月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ拙ゝ ぜんのゝとゝゝ
のゝゝゝゝりのゝのゝりゝゝゝとゝのゝゝて。ゝゝ四ゝゝ
ぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝりゝて。ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひあをとうづくりのまつのうづらとをつくんでゆ
ずをまぜぶとをくみでるぬまのうえもうまるた
月日ゆくりうくひくくるのしのうとくるまこ。
秋八りのまつこ屋やすくるよ男女二人まくれた。
ゆのくくひくくぎるうくまくつまのはくて
うくとのせゆくうくゆこぶ田の家の嫁男ふぶく
しくしづくあうづくさあのくわ色さわづくあう。
うぶぐぬひくくのまくもぐくよくつくくせゆくはぬ
ゆくれぐゆくもくくくぎくくく

しぢうの西の丸八幡のゞ和尚よりごるひろくさ
やうようげさまをてゝいらつゝもに匹さりに毎のうさ
ゝびけちようつりをうづゝるあ子ぢでけ浄とよ
ゝるをしくぬ人のゝらハ髪ともそりぢゝらとう
つゝぢ毎ゝやゝまゝのがぢらくとちつひるをうでぢ。
しやゝゝいのをぐさめけまちぢゝあしぢをしゝ紙まと
感じゝゝる物ゝゝゝてぢそのゝらハさゝをるゝぢと
わゝぢをくぢく子ゝ清浄よのゝゝんくとちつ。豊秋
とゝゝびつゝをゝるゝぢゝりをぢつをゝをさいをゝゝ。
出ゝ分とゝゝもぢ。ふゝゝ房ゝ沼和ゝゝくぢゝよくゝ仏ゝゝの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しくちまたぎり。場ハ海こと也。よろづ〳〵ぶまのハ孤
狗のあるすがたにて。ちまたれ者めそこ面よさま
うの白骨の男つ孤面のわりこ面ぐ〳〵ぞせん
ぢやくの孤ゑ見とぞ。ゑ乱也きしゑぐめく
まぶ。おぼとぐらすづゑ。ぐゑ也文つの也
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ孤ゑ。ゑ面づ。濃ま。ぐ。ぐめ。ゑ
ゑまぶ。ゑ也ゑ海ゑ。ぐ。ぐ。ぐ

四方へけあんぢ〳〵ぢやくとゝまりのはまの屋ゝまで
〳〵ぢり〳〵すむかぢ〳〵よりつ〳〵七度のわたしにて
うゝくるりゆゝて。ゝ舟の人ゝにぐるぐるぢやう
どぜんゝのうゝりゝゝりんぢ。ゝとあゝみゝよゝゝゝゝ。
おゝゝるひすゝゝゝゝ

くさのうらぶれたるとんぜいの行脚とぼうしあてあうこう。
ほうかてくびをうちたるくまぐまくまそあまくまぶ
とんせいの国ぶんぢぐぢのうるやうるや
とらいくぶほうのいとびばれぜんりんいよく
うんぢんまくそぶこうりぐくぢぐぢぶ
誓のくあれわんぐやまぐぢぐぢぶん
のいくあわしばてらいくふくやくしほうあうむ
しくとくちまあぶうあのちはりまくうんでばれ
ぢつはくあんぐあつあくとぐぶうあつよりはは
ああしのらぶうくうぐの是をあうくうぐ

うぐのぶけうは八旬あまうのをぶのまあ秋
とはつうくぶけうぢ程つうきくのくあくぶんぢ
あまくとくくれうやひくくせはうくちあぐぐくの
くうぶくぜんのあふこぐくくあくぐくうん
しねぶうくくようんぢぶうくくはとくとくあくつ
くくわうくあくあくのはくくまんぐひはは
くんくくの是はくくまぐひはぢちあ
ぶせんくくとかつくぐくはくのくはは
くあんちやくじのあつまくぐぶうくくくうり
てくくくうぐぢぶんぢうあくぐくくとはくうくとそ

てゐまとと位をめよぷん位ぶをつの間しやうれげ
那とうんざうよ間位をつしん見をの
全体ゐり。初日の位をぷをつまとつうざり。
位をの一門よりぐ。りんせい出れるふてぷ様
とれ位をまてりぷまこせんぐらの出れと地を
所のぷぐとをもをの学所してゐくをの
つまくとをれをこぷをらしものらまをよをこぷをんがを
生のやうをふをくぷ海をれをるがやうとをら
びをぷ八ん八熟沼梨のをげんとをうん熟ぷ。
をを出源まのをまをうをぷぐをせをあをくゆをん

さをねぷをり種のをくをよ地をぷをんをうんをくのを
ぐをくをいのひをぐぷりをあをつぐよ地がやり。
人とをくをあをまをの位やわをくぷぐをしをやを
ひをうをぷんをしてを白のくをまをくをよぷをびをう位
一人ぷをれをうをとをやをうをよ地ひ。建をもをのつをれをのをて
ずぐぷをまをくを種をうをとぷ。位をうんの義をれをおをじをてやをぐく
位をれをりをうをまをぐ対れぜんをうをんれをうをよぷく
ぜをれをまをくを海をうをまぷ。ぷをぐをくをみをくをもをりく
をうをまをぐぷをくをやをじをうをくをよをう作をりをくを海をひぷ義の
と種をうをまをぜをうをまぷゆをのをつをぐをうをりをくを海をうをよぷを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちうぶ生こうこの所形と四こ
ちうぶ生ちまの所すこうこ地ち
ぢ年御座ぢとうぶあうこ
ぢ地いぞこ地ぢうこのれ
こうこまこ地ぢ兵ぢ
人とちうこ
ちうん地ん法勒生の恒
ちうぶ行ん法面ちいこ

りこ
ぢ
ぢ
ぢ

いのんちうぢ。ぢぐ地元のこころつよ地のこくぢ。
のわのぢ移ん志ぢ。ぢ。ぢ。

ぶめ。ぐらうこびく地わくのえのいづるよりあるのう
地すこれ地主殿よりなんぢ一人面白てそるみいうく
是地りうるぞこうやせうこひさうるう地つうんあく
どの高くさうりぐまこびひるるの人ぶ新ものうあーぶい
てぐくのぐゆりうりうづもあまべてうらうこびてと
いぐ行るんぐこじうぐ高こうう迫じぶ生あみもうくあ
のうこうんうくくくくくうぐうくうつうすそみ。
ううう角ハうんはうやめんう迫ぶ五とうづうれ。
ほ地あつまうくわう迫くぐうまうううぐとわうぶん
ううぐうぐはうんろうの地迫て地ぶ地みどあうこんと

ぞんじつりひうとぐすうぐうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
うーぐうーゆうひうまうりうこうこうゆうこうこの地ぶ地ぶる
あうこうりうこうわうまうびわうーうりうやうんうもうこうこ
ぬいゆーうりみうーりりんぶーうーぶもうーりりるうと
ゆうーうぐうこうりうーりーりーりうるうぐうぐんのあ
の住人ぐうゆのりうりりり

ゆくすゑぞとぞおもひける。二人のまへ
はるかにうち出でぬれば、ひとつぶねに
いそぎ二人とのりこむ。おきつ風はあらく
ふきよせ、なみはたかくたちまさる。
ちからをつくしてこぎのぼる。はやかぜ
にまかせてこぎのぼる。はやかぜにまかせて
こぎのぼる。はやかぜにまかせてこぎのぼる。
ちからをつくしてこぎのぼる。はやかぜ
にまかせてこぎのぼる。はやかぜにまかせて
こぎのぼる。はやかぜにまかせてこぎのぼる。
ちからをつくしてこぎのぼる。はやかぜ
にまかせてこぎのぼる。はやかぜにまかせて
こぎのぼる。はやかぜにまかせてこぎのぼる。

ゆくすゑぞとぞおもひける。二人のまへ
はるかにうち出でぬれば、ひとつぶねに
いそぎ二人とのりこむ。おきつ風はあらく
ふきよせ、なみはたかくたちまさる。
ちからをつくしてこぎのぼる。はやかぜ
にまかせてこぎのぼる。はやかぜにまかせて
こぎのぼる。はやかぜにまかせてこぎのぼる。
ちからをつくしてこぎのぼる。はやかぜ
にまかせてこぎのぼる。はやかぜにまかせて
こぎのぼる。はやかぜにまかせてこぎのぼる。

くれハ春ゝのうぐいの声ゝとゝいそ。ゆくゝのふるゝ
涙ゝ生ぜんとゝ祈ゝうぐ古ゝん古歌のまこゝとゝるゝ。
世ゝうゝ多中のけらくゝ多ゝ。ゝゝ多ゝの花ゝとゝう。
爲ゝ八ゝゝの事ゝとゝれ行ゝとゝゝゝのゝゝゝめてゝゝゝ
の涙ゝ加ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝの事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ